

# 福知山市住民自治検討会議（第4回）報告

〔日 時〕平成29年12月19日（火）10：00～12：00

〔場 所〕市民交流プラザふくちやま4階 4-1会議室

〔出席者〕委員…10人、事務局…4人、傍聴者…5人  
（別紙のとおり）

## ■議事

### 1 前回のふりかえり

事務局から説明（別紙のとおり）

### 2 自治会長へのアンケートについて

#### 【質疑・意見等】

#### (1) 自治会活動に関する設問

- ・人口、立地条件、地域特性（自慢できるところ）についての記載欄を追加する。
- ・活動分野の各項目にある具体例を削除する。
- ・回答にあたっては、複数回答を可とする。
- ・過去5年間の変化についての自由記載欄を追加する。

#### (2) 自治会運営上の課題に関する設問

- ・「役員の負担が重い」というのを選択肢として独立させてはどうか。
- ・課題についての「ご意見」ではなく、「解決策」や「要望」に変更してはどうか。

### 3 地域の担い手について

<宗野先生より資料①～③を用いて説明>

- ・市町村合併を機に20年ほど前から「地域自治」が問題として取り上げられるようになった。
- ・地域自治には、「参加型」と「協働型」2通りある。現在、大多数の地域で「協働型」での地域自治が行われている。
- ・「参加型」の例として、新潟県上越市が挙げられる。「参加型」の場合は、選挙で選ばれた住民の代表で地域協議会がつけられ、行政に対して地域の課題を提示したり、市に対して意見を述べたり、提案を行う。
- ・「協働型」の場合は、区域内の地縁団体を中心に各種団体からなる地域協議会がつけられ、地域課題に取り組み、公共サービスの提供を自分たちで担っていく。
- ・従来の自治会町内会を中心とした担い手だけで、地域自治を運営していくには、非常に難しくなっている中で、問題になっているのは、担い手をどういうふうに確保し、育てていくのか、あるいは外から担い手の力をどのようにして引っ張ってくるかということであり、この問題から中間支援組織の必要性に繋がるのではないかと。

## 【質疑・意見等】

- ・「参加型」は、手上げ方式で一部の人が参加しているものである。地域協議会がこれにあたる。
- ・「協働型」は、全員参加型で、自治会組織がこれにあたる。
- ・「中間支援」の定義づけを行ってはどうか。  
⇒地域の中で、まちや村を維持していくための、地域外の人による支援としてはどうか。専門性が高く、地域に縛られずに自由に活動できる人を中間支援の担い手にできればよい。  
人以外にも、モノや資金、現在の課題を解決するための知恵も含まれる。
- ・協議会で収益性の高い事業を行う際、誰がリスクを追うのかが問題になる。地域協議会の活動を大きく広げるために、地域協議会の位置づけをしっかりとする必要がある。
- ・地域協議会の連合会を作って中間支援組織として位置づけ、各地域の課題に応じた専門家を選出して課題を解決するのはどうか。
- ・地域活性のための担い手は自治会長だと思う。夜久野では、各自治会の課題を抽出して協議を行い、各自治会に落とし込んでいこうとしている。
- ・各自治会に5年後、10年後をイメージしてもらおう活動をしている。  
住民には、「地域協議会が何とかしてくれる」と思っている雰囲気がある。
- ・自治会と地域協議会の連携に課題があり、連携の仕組作りをする必要がある。
- ・地域協議会は、自治会をサポートしている。中間支援組織として、地域協議会をサポートする組織を作ってほしい。
- ・行政の金銭的な支援だけでなく、行政職員による人的支援も必要である。職員が地域に入り、一緒に協力してほしい。
- ・自治会、地域協議会、中間支援組織の3重構造がよいのかどうなのか、協議する必要がある。たくさん組織を作るのも良くない。中間支援組織の担い手を考える際には、実行性があり効果的なものを考える必要がある。

論点のまとめとしては、2点。自治会役員の負担軽減と、地域の担い手が少なくなっていることについて今後検討していく必要がある。

### ■次回の開催

日 時：1月22日（月）10時～

場 所：市民交流プラザふくちやま 交流スペース

テーマ：地域の担い手について